

LIBERAL&DEMOCRATIC

自由民主

発行所
自由民主党本部
郵便番号 100-8910
東京都千代田区永田町1-11-23
電話 東京 03 (3581) 6211 (代表)
定価 1部 110 円 (税込み)
<毎週火曜日発行>



自由民主党ホームページ URL <http://www.jimin.jp/>

【号外】衆議院議員 大野敬太郎 特集号



5月の訪米時にシンクタンクCSISにて「人生100年時代の日本の将来像」についてパネルディスカッション
左から村井英樹代議士、小泉進次郎団長、福田達夫代議士と

人生100年時代の社会保障

先の参議院で年金不安論が再び沸き起こった。いわゆる「2000万円問題」だ。野党やメディアは年金制度の不安を徹底的に煽り、政権攻撃の材料にした。政府は「誤解を招いた」というが一体何が誤解だったのか？折しも党からは社会保障制度改革案が発表され、政府の方針となったばかりだった。人生100年時代の今、この国の社会保障制度は本当に大丈夫なのか。香川三区の大野敬太郎氏に訊いた。

■率直にお訊ねします。安心して暮らせるだけの年金はきちんともらえるのでしょうか？

◇大野：断言しておきますと、現行の制度が破綻したり買えなくなったりすることはありません。保険料も給付額も、物価や賃金の変動で多少の調整はありますが、ざっくり言って何十年経とうが、所得代替率、つまり現役世代収入に対する世帯受給額は5割以上、またご自身が払い込んだ保険料の倍以上は貰えるような制度設計になっています。いたずらに人々の不安を煽り、選挙の為に政局にすることを政治家自らがすべきではありません。

■「100年安心」は嘘ではない？

◇大野：はい。では、なぜ不安が根強いのか。

第一に、特に現役世代の方々ですが、個々の人生設計上の不安です。遠い先の老後について、どれほど出費が要って、どれほど収入があるかを想像はすれども、ベースとなる年金収入の具体額を調べる人は意外と多くありません。出費の方も、描く理想によって変わるのでご自身で決めないといけない。出費も年金も想像だけでは不安だと思います。現役世代の皆様には是非この機会に年金額の確認と老後の具体的な人生設計をされることをお勧めします。党の新しい年金制度改革案では、多様な生き方に対応できるよう、個々の人生設計で受給方法の選択幅を広げることになっています。

第二に制度の問題です。ざっくり言えば将来にわたって給付額は若干減っていくと思います。先ほど触れた所得代替率で言えば、現在の6割から数十年かけて5割に減ります。しかし、5割は維持することが決まっています。当然景気がよくなれば給付も上がる仕組みです。頑張れば増やすこともできる。実際今年の給付水準は去年より若干上がっています。一方で、批判勢力は不安を煽ることに懸命です。

ったり下がったりします。数年で見ればプラスなのに、下がった時だけ大騒ぎする。下がっても給付額は変わりません。もっと建設的な議論をすべきです。さらに言えば、むしろ今から抜本的な制度改正が必要なのは介護の分野です。

■では、なぜ「2000万円必要」との試算に至ったのでしょうか？

◇大野：すばり、件の報告書は、国民の関心を老後に向け、そのための資産形成を促すのが狙いだったからです。年金だけでは娯楽などゆとりのある老後が送れないですよ、だから個々人で別途貯蓄を始めてください、参考までにモデル世帯(年金受給額21万円の老夫婦が老後30年間26万円支出し続ける)で計算するとざっと2000万円になりますよ、と。しかしそもそも政府は年金金と謳っていたので、批判が先行・拡大し、年金制度へ対する不安を招く結果となってしまった。

◆つまり、政府は責任を放棄して国民へ自助努力を促したのではない？

◇大野：違います。野党は世論をミスリードしました。現行制度は民主党政権時に彼らが築いた基盤の上に成り立っているにも関わらず、です。そもそも老後の娯楽資金やリフォーム代までも現役世代から吸い上げて年金で賄うべきと本気で考える国民がいるとは思えません。政治の劣化です。

◆なるほど。政府の言う「誤解を与えた」とはそうした意味だったのですか？

◇大野：はい。メディアで飛び交っていたような不安隠しでも責任逃れでもない。ただし、報告書の受け取り拒否は些か乱暴であったと思います。試算のモデルケースを増やし、年金制度の検証を併記するように再諮問すべきだったと思います。資産形成に関心を持って頂くこと自体は、不安を小さくする方法として間違っていないと思います。

◆今回の問題は様々な世代が国の社会保障制度について考えるキッカケとなったように思います。

◇大野：政治は皆様一人一人の暮らしに安心をお届けするためにあります。どのような立場や環境の方であっても、その対象から漏らしてはなりません。一方で、健全な制度を整備するためには、制度を享受する国民の皆様からの正しい批判が必要で、そのためには、皆様が関心をもって理解を深めることが必要です。ですから我々政治家もなお一層努力を重ねなければなりません。

1.全米から尊敬を集める故マケイン上院議員の墓前にて 2. 外交関係の質問に立った予算委員会にて



戦後、日本の国際政治力がこれほど
試された時代はない。踏ん張り時だ。

6.「茶業振興議連」より安倍総理へ新茶献上 7.東京大学大学院松尾研究室とよサテライト(MAIZM)オープン式典にて



地方創生なくして日本の活力なし。
国家の根本構造も改善すべきだ。



8.週末は農家の皆様の声を伺いに 9.農業土地改良の集いにて二階俊博会長と 10.地元農村地域の先輩方と意見交換
11.観音寺伊吹漁協で海の男たちと水産政策意見交換 12.二宮の花見で農業の意見交換
13.ユネスコ世界無形文化遺産登録を目指して議員の会を発足(山口俊一会長、栗田町長らと) 14.小野寺五典防衛大臣と大平正芳先生のお墓参り 15.地域活性化プロデューサー 古田秘馬氏と文化庁を交えて新たな政策の打ち合わせ 16.参院選応援で地元の皆様にお訴え 17.放課後児童クラブ視察・若者政策の立案 18.19.柴山昌彦文科大臣・石田真敏総務大臣に地方創生政策の提言

3.米国主要シンクタンクのハドソン研究所でワインスタイン所長と懇談
4.ウラジオストクのオレク・グメヌク市長との会談 5.国際秩序戦略の政策提言を官房長官に申し入れた際の取材受け

facebook

LinkedIn

Instagram

Twitter

YouTube

大野敬太郎 profile

- 昭和43年11月1日生まれ。申年蠍座O型。坂出付属中、丸亀高校、東京工大、同大学院修士、東京大学博士号取得、富士通研究所、東京大学産学官連携研究員、米国カリフォルニア大学バークレー校客員フェロー、防衛庁長官秘書官などを経て、2012年衆議院議員初当選(3期目)。
- 現在、党外交副部長、安全保障調査会事務局次長など。衆議院では安全保障委員会などに所属。
- これまで、財務金融・中小企業政策・科学技術イノベーション・知的財産・宇宙海洋開発・航空政策・農業・社会的事業など多くの政策立案に従事。元防衛大臣政務官。
- 連絡先:【丸亀事務所】0877-21-7711【観音寺事務所】0875-23-1231【東京事務所】03-3508-7132
- 公式WEB: <https://keitaro-ohno.com/>